

灯



新しい年を迎え、特に何が変わったわけではないが、何となく新しい気持ちになり何かに取り組もうか、という思いが出てくるのは新年の持つ不思議な力だ。

一年前の一月、わが昭和学園は四十年ぶり体育館を新築し落成式を挙行することができた。

過疎化と少子化に加えて大分県は公立志向の強い県でもあるので、私学経営も厳しいものがあるが、教育環境の整備には手をゆるめるわけにはいかない。

特に四十年前から男女共学に踏み切り二百人もの男子生徒を抱

えるようになり、女子用の古い体育館では対応できなくなっていたので、多額の費用が必要だが、ちゅうちよすることなく決断できた。

体育館の建築が始まると周囲

新築体育館



草野 義輔

の方々からおおむね三点セット

で質問されることが増えた。まず、何を作っているのか、次にいくらかかるのか、そして補助金はたくさん出るのか、ということだった。

わが体育館の最大の特徴はステージと舞台裏が一体化したもので、近隣の学校体育館にはほとんど見られない形である。この方式は昨年十一月に全県の弁論大会を開催してみてその使い勝手の良さが実証された。

かかった費用は近隣の公立高校体育館とはほぼ同額、補助金については総費用のわずか2・4%。ほとんどは自前である。私学経営の大変さの一端と私学Ⅱ民営の効率の良さをこのことからもうかがうことができる。

郵政民営化が多くの特長を得たが、教育の民営化は進むのだろうか。国立大学の法人化はまだ緒に就いたばかりである。

(日田市昭和学園高校理事 草野 義輔)